

# 琉球大学学術リポジトリ

## ハイラインとランドレース

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松田, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20619">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20619</a>

# ハイラインとランドレース

ハイラインとランドレースという二つの仮名書きの名前をならべたが、両者の間には何も深い関係はないのである。ハイラインとは鶏会社の名前であり、ランドレースは豚の品種の名前である。それでは何故に二つの名前をならべたかという、この二つとも来るべき年の家畜家禽界の人気者、いや人気者といって誤りであるなら畜産界の話題になりそうであるから、ここに話題の材料として二つならべたわけである。

## ハイラインについて

ハイラインとは、詳しくはアメリカのアイオワ州にあるハイライン農場の商標名である。ハイライン農場はもともと、とうもろこしの種苗会社であるが、とうもろこしの優良品種の育成に成功した技術を鶏の品種改良に応用し、1936年から今日まで26~7年間の研究と改良の結果が同農場をして、ハイライン養鶏場として、養鶏界に有名にならしめたのである。

今から3カ月前の新聞にアメリカのハイライン農場のヒナが1,100羽アメリカから空輸されてきて種畜場、農林高校、琉球大学で試験のために飼育されるという記事を記憶の方が居られると思うが、ハイライン鶏とはどんな鶏かという、去った10月に空輸されてきて、琉球大学で育成している二カ月雛をみると白色レグホーンと殆ば同じであるが、体がガッチリして非常に丈夫であるのは私が考えていた白色レグホーンと異っている。

それでは、ハイライン農場の鶏の改良方針と改良方法について、今までに発表された印刷物をたよりに簡単に述べて御参考に供したい。

300卵鶏の子は、必ずしも親のように300卵鶏であるとは限らない。親のように300卵を産む子もあるかも知れないが、200卵以下のものも出てくる。即ち均一性がないのである。親が優秀であるなら、その子も同じように揃って多産する均一性のある鶏を作成することは、誰でも希望するところであるが、これを達成することは非常にむづかしいことである。

この困難な目標を達成するために近親交配という方法が考えられた。親子、兄妹、祖父母と孫というように血縁の非常に近いもの同志の交配を近親交配といわれ、この近親交配を何代も続けて行くと、これまでかくされていた不良の形質例えば、体が弱くなる、き形が出る、卵を産まない等という不良鶏が沢山出るのであるが、悪い形質をもった子孫は、どんどん淘汰して行って、悪い形質が出現しないで、しかも卵を沢山産む子孫のみを近親交配して、何代も続けると何れも揃って多産する系統のものが作り出される。これは近親交配によって出来た系統であるから近交系といわれる。よい形質のみが固定されてくるとその後は、近親交配を続けても悪い形質は出現しないようになる。大きな資本をもつ養鶏場であるなら優秀な近交系を幾つも作り出すことが出来る筈である。

しかし近交系は、活力が少い、即ち元気がないという欠点をもっている。何故に活力が少いか、その原因は未だ不明であるが、しかし近交系のAの系統と近交系のBの系統とを交配して一種の雑種を作ると親よりも元気のよい子が出てくる。これが近交系雑種といわるもので、揃って丈夫で、元気があって、多産するといわれている。

これを図で示すと



去る10月に沖縄に送られてきたハイライン鶏は四近交系雑種である。

アメリカで行われている公認の産卵検定の成績によると(1959~1960年の成績)、ハイライン農場の四近交系雑種の500日間検定では、ヒナの育成率が96%、即ち100羽の雛を育雛して産卵開始までに僅かに4羽死んで96羽は卵を産んだことになっている。産卵開始後1カ年の死亡率は11%、産卵指数233~224個、毎日の産卵率70~73%となっていて非常によい成績であることがわかる。

沖縄養鶏の悩みの一つは、折角資本と労力をかけて育

成した若雌が、初産開始後2、3カ月の間に肝肥大症やその他の病気のため、死亡するものが多いことであるが、ハイライン鶏のように死亡率が少く、多産するならばわれわれは大いにこれを歓迎するのである。

沖縄のような高温多湿の気候でもアメリカと同様に好成績が出るかどうかは、目下育成中1,100羽の雛の成績が示してくれることと思う。

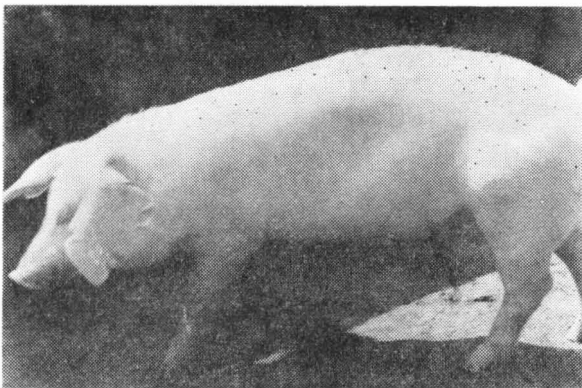
近交系雑種を作っている農場はハイライン農場だけでなく、エームズ、インクロス、デカルブ農場など多数の農場がある。エームズ、インクロスは岡山の池田牧場と契約して四近交系雑種を作っている。1962年の秋には沖縄にも多数輸入されている。

### ランドレースについて

鶏豚界の新しいホープとして話題となっているランドレース種はいまでは沖縄にもすでに輸入されているが、1960年春にアメリカンランドレースが18頭山梨県に空輸されたのが日本に於ける最初で、その後3カ月足らずの間に1,000頭に及ぶランドレースが英国、スウェーデン、アメリカ、オランダから輸入されている。

それではランドレースという豚はどんな豚であるか、今までに発表された報告から拾って紹介致したい。

ランドレースはデンマークで長年にわたる改良の結果出来た豚で、その体型能力はベーコンタイプの豚として極めて優良なものでデンマーク豚の95%は、この豚であるといわれる。



ランドレースの若雌

写真に見るような胴のびのよい、耳のたれた白色の豚である。ときどき新聞などに普通の豚よりも肋骨(あばら骨)が何本か多いということが書かれている。大体豚の肋骨の数は13対から17対位の範囲でランドレースに比べて多いということではない。しかし、いづれにしても肋骨が多いといわれることは、胴のびのよい豚であるということである。

豚の品種の良否はその繁殖力、発育の速さ、飼料の利用性、肉質などの良否によって決定されるのであるが、ランドレースについて調べてみよう。

#### イ、繁殖力

1腹の平均産仔数は、11.7頭、8週令の離乳仔豚数は9.4頭、子豚の生時体重1.3~1.5kg、離乳時の平均体重17kg(28斤)である。

#### ロ、体重

体重90kg(150斤)になるまで170~180日、離乳後110~120日、1日の増体量680~700g

#### ハ、飼料要求率

体重1kg増加するに要する飼料所要は2.9~3kgである。普通、豚の飼料要求率は4ということから考えると、ランドレースは能力の高い豚といえることができる。

#### ニ、肉質

脂肪少く、背脂の厚さ3cm以下で、ベーコン用としても、生肉用としてもすぐれ好評を博している。

ランドレースの適応性：ランドレースは、前述のように北欧の冷涼高燥の地方で改良された豚であるから、沖縄のように高温多湿の地に適するかどうか疑問があるが日本での成績では、夏の暑さにもヨークシャーよりも強いようであるから、沖縄にも適するように考える。

この豚の沖縄における適応試験でも早急にやって貰いたいものである。(松田 祐一)